



遠近新聞

第十八號

定價一匁

西垣文庫
文庫 10
7265
16

西垣文庫



特 文庫10
7265
16



新関第十八号

慶應四年五月十六日

原書英政如何より抄出
貨幣論

貨幣の相場は猶水の如くより自ら其至る所まで
至るべし政府の権威を以て強て其相場を高低する
と所をさす夫をソウエレイン金英國貨并にレルリン
グ銀上も品物と引替はるる金銀の片碎にて別な位
もみく又別な直打もみくれば貨幣は鑄立てざる金
銀と更な差別あり故に其重きと其形状はあはる

遠近新聞

第十八号

九十



5727

常は變化へんかするところありとり人共其直打ちくうちよおぬるの自
 己の多少と他の品物の多少とよ由て變化へんかしたる人
 バソウエレイン金沢山ありて牛肉拂底ひらきあれを買主かひ
 ハソウエレイン金と惜おぼむとて競きあふ牛肉を買ふ
 此時の牛肉の直打ちくうち上りてソウエレイン金の直打下
 がままり若わし又牛肉沢山ありてソウエレイン金
 拂底ひらきあれの前と相反あひまして牛肉の直打下さがりてソウ
 エレイン金の直打上あがりあり故に此物の高たかし彼物
 の安やすしとりふに此物の多おほし彼物の少すくしとりふと
 同様どうようあり
 鈴木唯一すずき 唯一記

○国四月廿二日横濱賀製鉄所と鍋島家の引渡
 是迄の掛役人の江戸に引取跡横濱定役の雇
 よお成なりい

取締とらひ掛り

志村しむらや一郎

附役

霍くわく 太重たいじゆう郎

山本やまもと半之丞

入費いりひ掛り

志村しむらや一郎

山口誠一郎

中村民五郎

恒川 成助

分配掛り

川久保忠兵衛

近藤豊太郎

清水弥十郎

永山富太郎

倉庫掛り

福岡喜四郎

横井孝之助

大崎左吉

山崎弥一郎

○
 先日西丸より 上野宮様へ由登城可_レ遊_レ音 由沙
 汰の処由不快の趣_レて由断_レ相成り然_レる処官軍大
 砲を曳_レき来り談判_レ及_レひ彰_レ義隊も總出_レて既_レに戦
_レて相成_レべき様子ありしが幸_レよして事治_レまりたり
 右の事_レ付てあらん宮様師七人西丸へ登城の処其
 内二人を止_レめられ_レり之_レに依_レて田安殿より右の者

此返し相成度旨西丸へ由頼相成ゆし

土耳児名二人脱走致し會津に参り三兵傳習番番械傳習金銀山を開きゆふ若松城下大盛ある由右脱走と申あつた実ハ本国の命あり元来土耳児人と會津人と氣象お似るが故に此舉ありと云噂あり

第十三号に載せり閏四月二十五日夜途中より英國ミニストルの使を脅せし士と薩州人あつんとて外國人より嚴しく掛合ひ之をとりとゆ近日常濱と

り帰府の人より確説を得ん次冊に載せり

○ 五六日前芝の僧徒五六十人脱走せし由

○ 庄内の兵仙臺領内より九条殿下を警衛致し居りい

○ 庄内より一旦敗軍せし後勝利の由

○ 先日肥前の蒸気船着岸し兵士七百人程上陸溜池の

屋敷へ入りいし

天狗童

無名氏

某家童子歳十五。百事不辨。世所捐。母也憂之。日督責。訴神懇請。淚漣々。门外偶遇隆準客。則把其手。撫其肩。瞑目不知過何地。飄忽提至鞍馬巔。兩耳惟聞風飒々。兩眼唯見雲翩翩。仙漿半盞。身神爽。珍果一盆。口腹填。踞坐松根。静教誨。更授一刀。輕若煙。劈樹穿石。容易耳。可以入地。可上天。說來人生得失事。禍福應報有因緣。嚴戒天機勿敢泄。自今令汝列群仙。賴有母念戀汝切。未免塵寰一縷牽。

立身起家無他訣。只須温清孝心堅。聞一曉十通物理。決疑去惑道乃全。去矣靈場難久處。大喝一聲喪耳前。忽再身墮茅茨下。四隣驚怪見欲顛。物色非復往日態。衣袂暗覺異香傳。強記博聞書萬卷。多言能辨事無邊。左右縱橫三萬里。古今上下二千年。嗚乎天狗何為者。徒為童子懇周旋。願吐公明正大說。一喝驚覺滿城眠。

○參謀右届書の写

蜂須賀阿波守

兩國橋固めは 仰舟難有奉存い右場所交代途中
より人数五百人何色は哉操出—三百人ハ右場所明

ケ拂ひ同ら振出委仕任い勿行方不お分何共奉恐入い得
共主人始め重役の者不行届よ舟追討免お成い振
仕度奉存い以上

四月

右真偽詳あらざれ共得よ随ひ誌まものあり

日本橋元四日市

銅版職人召抱へ居り

和泉屋半兵衛

